

## 子規がつくった俳句 その2

## あたらしい俳句 —俳句の革新—

## 子規はどんな俳句を作ったの？

子規は、「俳句は文学」と考え、「作った人の気持ちや、その時の様子が想像できる俳句を作ろう」とよびかけました。そして、世の中の出来事や旅で見た風景などを、分かりやすい俳句にして、新聞や雑誌などに発表しました。「写生」の俳句を作ろうと、俳句の革新に取り組んだのです。



俳句は5・7・5の17音で作ります。その中に季語（四季それぞれの季節感を表す言葉）を入れます。

## 子規の俳句が全国に広まる

子規が作った俳句は分かりやすく、「俳句の作り方を教えてほしい」「自分の作った俳句を見てほしい」とたくさんの人が俳句を送ってきました。

子規たちが作る新しい俳句は、いつの間にか日本全国の人たちに広まりました。そして「日本派俳句」と呼ばれました。主に新聞「日本」で作品の発表をしていたからです。

## 子規の俳句を見てみよう

子規は本当にベースボールが好きだったんだなあ。好きなことで俳句を作るのは楽しそうだね。



季節 夏  
季語 夏草

夏草や  
人遠し  
ベースボールの

雪がどくらい積もったか、気になっているみたいだね。雪が降ると、子規もわくわくしたのかな？



季節 冬  
季語 雪

雪のたね  
深き  
尋ねる

「クリスマス」も明治になって日本にやってきた言葉だよ。新しい言葉もどんどん使っているんだね。



季節 冬  
季語 クリスマス

贈り物を  
クリスマス  
尽して

## 俳句の雑誌 「ほととぎす」の誕生

明治30年(1897年)、子規たちは日本派の俳句活動をもっとたくさんの人に広めるため、俳句の雑誌「ほととぎす」を作りました。はじめ松山で作られていた「ほととぎす」は、次の年から東京で作られるようになりました。

ペンネームで使われていた「ほととぎす」は雑誌の名前にもなったんだね。



## 展示室でチェック! 雑誌「ほととぎす」と「ホトトギス」

「ほととぎす」(明治30年1月~明治31年9月)



松山で発行しました。子規の友達・柳原極堂が編集長をしました。子規たちの俳句の作り方や、募集して集まった俳句をのせました。



▲柳原極堂

「ホトトギス」(明治31年10月~現在)



読む人が全国に広まったので、東京で発行することになりました。編集長は、子規のこゝ後はい・高浜虚子が担当しました。俳句のほか、絵や文章ものせました。



▲高浜虚子

## 子規博にも…



子規記念博物館のげんかんとびらは、右上の「ホトトギス」の表紙デザインを使っています。

## 展示室でチェック! 句会の様子



子規たちが句会をしている様子の絵です。子規や虚子をさがしてみましよう。